

## Arcserve UDP v6 製品 留意事項

本書は、Arcserve UDP v6 製品の留意事項について記載しております。製品ご使用の前に必ずお読みください。

### — 目次 —

<b>全製品共通</b> .....	<b>2</b>
1. 導入前の留意事項 .....	2
2. 導入時の留意事項 .....	4
3. バックアップ時の留意事項 .....	4
<b>Arcserve UDP (Windows)</b> .....	<b>4</b>
1. 導入前の留意事項 .....	4
2. インストール／アンインストール時の留意事項 .....	5
3. バックアップ時の留意事項 .....	6
4. リストア時の留意事項 .....	7
5. ベアメタル リカバリの留意事項 .....	7
<b>Arcserve UDP Agent (Linux)</b> .....	<b>9</b>
1. 導入前の留意事項 .....	9
2. インストール／アンインストール時の留意事項 .....	10
3. バックアップ時の留意事項 .....	11
4. ベアメタル リカバリの留意事項 .....	11

本文書の内容は、予告無く変更されることがあります。  
すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。

## 全製品共通

### 1. 導入前の留意事項

- (1) Arcserve UDP 製品の留意事項および、技術情報等については、下記の WEB サイト (Arcserve 社) をご覧ください。

<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3pdWAC/arcserve-udp?language=ja>

- (2) 製品のインストール時、またはインストールを行った日から 30 日以内に、ご購入になった製品のライセンス登録をしてください。ライセンス登録を行わない場合、31 日を経過するとトライアル期間が終了し、ライセンスが不足している製品について機能が使用できなくなります。
- (3) 本製品のライセンス キーおよびパッケージは、紛失されても再発行できません。
- (4) ライセンス キーの入力は、閏日 (2 月 29 日) を避けて行ってください。
- (5) バックアップしたデータから複数のコンピュータへ、ベアメタル リカバリを使用し、複製しないでください。
- (6) バックアップ対象としてリムーバブルメディア (CD/DVD-ROM や USB メモリ) および USB ハードディスクは選択できません。
- (7) UDP コンソールから各マシンのバックアップ運用を統合管理する場合、管理対象となっている Agent 側ではバックアップの設定・管理は行えません。
- (8) 復旧ポイントサーバ (RPS) への Linux 環境をバックアップする運用において、以下の機能は提供しません。
- ・クラウドストレージへの二次バックアップ
  - ・ファイルコピー
  - ・仮想スタンバイ
- (9) 本商品に同梱されている、Arcserve Backup 製品および Arcserve Replication 製品は、富士通版として提供している製品および機能のみサポートします。サポートしない機能については、下記の WEB サイト内のそれぞれの製品内にある「留意事項」をご覧ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/arcserve/catalog/>

#### (10) 高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

## 2. 導入時の留意事項

- (1) UDP コンソールを使用してバックアップ運用を行う場合は、ライセンス登録は、UDP コンソールをインストールするマシンで行ってください。  
なお、ライセンスの初回登録後 24 時間を経過して新たにライセンス登録を行う場合は、Arcserve 社の下記の WEB サイトを参照ください。  
<https://support.arcserve.com/s/article/206064236?language=ja>

## 3. バックアップ時の留意事項

- (1) バックアップ先のディスクの空き容量が不足すると以降のバックアップが失敗します。その場合はバックアップ運用を見直してください。  
(見直し例)
  - ・ バックアップ先を空き容量が十分にあるディスクに変更します。
  - ・ 復旧ポイントまたは復旧セットの保存数の設定を変更します。
- (2) クラウド上の仮想マシン内のバックアップ対象は、データ領域のみです。システム領域（システムファイル、システム状態）のバックアップは行わないでください。
- (3) Arcserve UDP のバックアップデータ格納先として、FUJITSU Storage ETERNUS CS800 S6 デデュープアプライアンスをサポートします。  
なお、Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ（RPS : Recovery Point Server）のデータストアとして設定する場合、データのデデュープリケーション（重複排除）機能は使用しないでください。
- (4) UDP コンソールによるクラウドストレージへのファイル コピー設定時、バックアップ対象ノードが、マシン名で登録されている場合、プランの展開に失敗することがあります。バックアップ対象ノードを IP アドレスとして登録し直し、プランを再展開してください。

# Arcserve UDP (Windows)

## 1. 導入前の留意事項

- (1) 2TB 以上のディスクにあるボリュームをバックアップする場合は、バックアップ設定に「標準圧縮」（デフォルト）または「最高圧縮」を選択してください。
- (2) 次の環境および媒体での動作はサポートしません。
  - ・ PRIMECLUSTER 環境
  - ・ 仮想マシンで構成したフェールオーバー クラスタ環境（ゲストクラスタ）
  - ・ クラウド上の仮想マシンに対するベアメタル リカバリ
  - ・ USB メモリをベアメタル リカバリ用メディアとする運用

- (3) 仮想環境（ゲスト OS）へ本製品を導入する際の動作要件については、以下のサイトをご参照ください。

Arcserve UDP 動作要件

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/arcserve/discontinued/v6udp/environment/>

- (4) Arcserve UDP と Arcserve Backup および Arcserve Replication 間の連携機能は、同梱されている Arcserve Backup 製品および Arcserve Replication 製品でのみ動作します。
- (5) バックアップ先はハードディスクのみが対象です。内蔵ディスク、外部ディスク、NAS など Windows で認識できるハードディスクをお使いいただけますが、CD/DVD-ROM 等の光学メディアは使用できません。
- (6) バックアップ先のボリュームは自動的にバックアップ対象から除外されるため、バックアップ先には、保護対象と異なるボリュームを用意してください。
- (7) クラウドストレージへのファイル コピー機能、ファイル アーカイブ機能は、FUJITSU Cloud A5 for Microsoft Azure（クラシック環境）のみサポートします。FUJITSU Cloud Service for Microsoft Azure には対応していません。

## 2. インストール／アンインストール時の留意事項

- (1) Arcserve UDP のインストールメディアに同梱されているのは、Microsoft SQL Server 2014 Express Edition です。このため、Microsoft .NET Framework 3.5/4 がそれぞれインストールされている必要があります。本製品のインストール前に、以下を実施ください。
- Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 で使用される場合  
事前に Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 をインストールしてください。  
なお、PRIMERGY に添付されている Windows Server 2012 の OS メディア（Operating System - Recovery DVD）から Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 をインストールできない場合があります。その場合は、インターネットに接続し、ダウンロードインストールしてください。
  - Windows Server 2008 R2 で使用される場合  
事前に Microsoft .NET Frameworks 4 および、Microsoft .NET 4.0 Language Pack（日本語）をインストールしてください。
- (2) Windows Server 2008 環境に UDP コンソールをインストールすることはできません。
- (3) Windows Server 2008 環境の場合、UDP エージェントをインストール中に再起動が実行されます。再起動後は自動でインストールが継続されます。
- (4) インストール時の [言語の選択] 画面では [日本語] を選択してください。
- (5) Arcserve UDP 製品アンインストール時には以下のコンポーネントは自動的にアンインストールされません。  
Arcserve UDP 製品アンインストール後、必要に応じて別途アンインストールしてください。

- Microsoft SQL Server 2014 Express Edition (UDP データベース)
- Microsoft .Net Framework 4
- Microsoft Visual C++ 2013 Redistributable Package

- (6) 製品のアンインストールを行っても、ライセンス登録関連のサービス、レジストリ、フォルダ/ファイルは削除されません。
- (7) Arcserve UDP がインストールされている環境で、Windows OS をアップグレードする場合は、事前に Arcserve UDP をアンインストールし、OS のアップグレードが完了後、Arcserve UDP を再インストールしてください (アンインストールせずに OS をアップグレードすると OS が起動しない場合があります)。
- (8) ドメインへの昇格、ドメインからの降格、または別ドメインへ移動する場合は、一旦アンインストールし、再度インストールしてください。
- (9) バックアップ プロキシサーバにインストールする場合、事前に ESX Server または vCenter Server とバックアップ プロキシサーバ間の https 通信プロトコルまたは http 通信プロトコルが正しく設定されている必要があります。
- (10) Arcserve UDP v5 からのアップグレードは、Update2 以降のバージョンがインストールされている環境が必要です。
- (11) インスタント VM 機能において、Windows マシンを VMware 環境上の仮想マシンとして使用する場合、RPS サーバまたは Windows Agent がインストールされたサーバ上に「NFS クライアント」の機能がインストールされている必要があります。
- (12) Linux マシンでインスタント VM 機能を使用する場合、Linux バックアップサーバを構築した Linux 環境が必要になります。

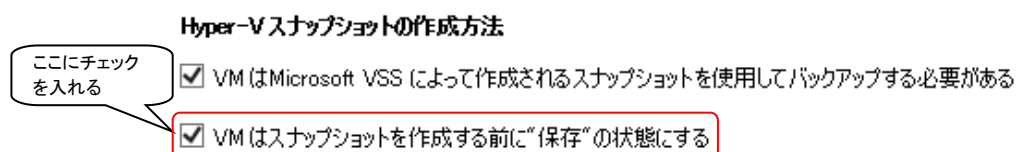
### 3. バックアップ時の留意事項

- (1) Windows Update の SoftwareDistribution フォルダはバックアップされません。そのため、ベアメタル リカバリ後 Windows Update の更新履歴は復旧されません。
- (2) ファイル アーカイブ機能を使った運用は推奨しません。コピー対象にアプリケーションの構成情報やシステム運用上必要なファイル等、容易に削除されるべきではないファイルが含まれる場合には使用しないでください。
- (3) Oracle データベースは Oracle VSS Writer を使用してオンライン バックアップが行われますが、Oracle Writer の復旧ポイントは作成されません (ボリュームの一部としてバックアップされます)。  
ファイル単位のリストアまたはベアメタル リカバリを実施したあとに、リカバリコマンドの実行が必要です。詳しい手順は、Agent for Windows ユーザガイドを参照してください。

(4) Arcserve Windows Agent だけでは Hyper-V ホスト上から仮想マシン単位のバックアップは行えません。仮想マシン単位のバックアップを行う場合は Arcserve UDP のエージェントレス バックアップ機能を使用してください。

(5) Hyper-V のホスト OS が Windows Server 2008 R2 または、Windows Server 2012 において、Arcserve UDP のエージェントレス バックアップ機能を使用した仮想マシンのバックアップを行う場合は、Microsoft のオフライン スナップショット方式を使用して、スナップショットを作成するために一時的に仮想マシンを停止させる必要があります。

UDP コンソールで行うバックアップ プランの作成では、「ソース」タブ内にある以下の設定を行ってください。また、バックアップは業務時間外等、業務に支障のない時間帯に実施してください。



#### 4. リストア時の留意事項

- (1) UDP コンソールからエージェントへログインすると「お使いのブラウザでは、JavaScript がサポートされていないか、無効に設定されています。」と表示される場合があります。Internet Explorer の「インターネット オプション」-「セキュリティ」でアクティブスクリプトを有効にしてください。
- (2) 圧縮属性ファイルは ReFS ボリュームへのリストア後、圧縮属性が無効になります。また、暗号化属性ファイルは、ReFS ボリュームへのリストアはスキップされます。
- (3) Hyper-V 上の仮想マシンのエージェントレス バックアップからリストアする際、仮想マシンは、リストア オプション「新しい仮想マシン インスタンス UUID を生成」設定に問わず、常に新規の GUID で復旧されます。

#### 5. ベアメタル リカバリの留意事項

- (1) ベアメタル リカバリ後、バックアップ先ドライブにリストア対象ドライブへのジャンクション ポイントが作成される場合があります。復旧後、残っているジャンクションを削除しても問題ありません。
- (2) ベアメタル リカバリに使用する復旧用メディアの作成には、Windows 8/8.1 用の Windows ADK (Windows アセスメント&デプロイメント キット) Microsoft 社の Web ページよりダウンロードし、インストールする必要があります。
- (3) Windows Server 2008/Windows Server 2008 R2 環境のベアメタル リカバリには、Windows 8 用の Windows ADK より作成した復旧用メディアを使用してください。Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 環境のベアメタル リカバリには、Windows 8.1 用の Windows ADK より作成した復旧用メディアを使用してください。

- (4) ベアメタル リカバリ対象の機種によって、必要となるデバイスドライバが異なります。

Windows ADK に標準で用意されているデバイスドライバで認識できないデバイスのドライバを用意する場合は、下記の表のドライバが使用できます。

Windows Server 2008 x86	Windows Server 2008 (32-bit) 用ドライバ
Windows Server 2008 x64 Windows Server 2008 R2	Windows Server 2012 用ドライバ
Windows Server 2012 Windows Server 2012 R2	Windows Server 2012 R2 用ドライバ

- (5) ベアメタルリカバリによるリストア終了後、システムを再起動した時に、「Windows エラー回復処理」画面が表示される場合があります。「Windows を通常起動する」を選択してください。
- (6) Windows Server 2012 の記憶域スペースが存在する環境のベアメタルリカバリでは、記憶域スペースは作成されません。ベアメタルリカバリ実施後、記憶域スペースを再作成しデータをリストアしてください。
- (7) 仮想マシンの UUID を変えずに仮想マシンの復旧を行う際は、対象となる仮想マシンの電源が ON の状態で行ってください。電源 OFF の状態で復旧した場合、仮想マシンの UUID が変更され、UDP コンソールで登録されているノード、プランの再登録が必要となります。
- (8) エージェントレスバックアップデータを用いて、VMware 仮想マシン全体を復旧する場合には、(RetainMACForVDDK の設定に関わらず) 常にバックアップ時点の MAC アドレスが復元されます。またレジストリ設定「RetainMACForVDDK」は、復旧後の仮想マシンの MAC アドレス設定のタイプ（自動/手動）に影響します。

「RetainMACForVDDK = 0」：「自動」(+バックアップ時点の MAC アドレス) で復元されます

「RetainMACForVDDK = 1」：「手動」(+バックアップ時点の MAC アドレス) で復元されます

このため、バックアップ時点で MAC アドレスを「手動」としていた仮想マシンを「手動」として復旧するためには、「RetainMACForVDDK = 1」としてください。

レジストリキー：HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Engine

値の名前：RetainMACForVDDK

値の種類：REG\_SZ

値のデータ：1

- (9) 物理マシンから仮想マシンへのベアメタル リカバリ (P2V : Physical to Virtual)、インスタント VM、および、仮想スタンバイ機能は、すべてのハードウェア環境からの P2V を保証するものではありません。以下の点を留意の上、運用前に動作を確認ください。



- ・本機能は、仮想マシンでの OS 起動までを提供します。アプリケーションの起動等その後の OS の動作は保証しません（特に **ServerView Installation Manager** 等のハードウェアに依存するソフトウェアやデバイスドライバの動作）。

(10) クラスタ環境 (MSFC/WSFC) をベアメタル リカバリで復旧する場合は、共有ディスクまたは Cluster Shared Volume の接続を解除し、ローカルディスクのみ復旧してください。

詳しい手順は、Agent for Windows ユーザガイドを参照してください。

## Arcserve UDP Agent (Linux)

### 1. 導入前の留意事項

- (1) Arcserve UDP Agent Linux を使用する場合、バックアップサーバ (Linux マシン) が必要になります。なお、インスタント VM を使用しない場合は、バックアップ対象の Linux マシンと兼用しても構いません。
- (2) バックアップ対象サーバのローカルディスクをバックアップ先に設定する場合、バックアップ元のディスクとは別のディスクが必要です。
- (3) 富士通版 Arcserve UDP Agent Linux がサポートするバックアップサーバの OS は、Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)および Red Hat Enterprise Linux 7 です。
- (4) 次の環境での動作はサポートしません。
  - ・ PRIMECLUSTER 環境
  - ・ 上記以外のクラスタ構成
- (5) 仮想環境 (ゲスト OS) へ本製品を導入する際の動作要件については、以下のサイトをご参照ください。

Arcserve UDP 動作要件

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/partners/partners/arcserve/discoscontinued/v6udp/environment/>

- (6) 暗号化されたボリュームのバックアップはサポートしません。
- (7) Raw デバイス領域のバックアップはサポートしません。
- (8) バックアップ先はハードディスクのみが対象です。CD/DVD-ROM 等の光学メディアは使用できません。
- (9) 復旧ポイントサーバ (RPS) への Linux 環境をバックアップする運用を除き、Agent で以下の機能は提供しません。
  - ・ 継続的な増分バックアップ
  - ・ クラウドへの二次バックアップ
  - ・ ファイルコピー

- (10) クラウド上の仮想マシンのベアメタル リカバリは、未サポートです。
- (11) Linux 環境は仮想スタンバイ機能に対応していません。
- (12) 復旧ポイントサーバ (RPS) を使用する場合、バックアップ対象の Linux サーバと RPS サーバ間で名前解決が出来る必要があります。

## 2. インストール/アンインストール時の留意事項

- (1) Preboot Execution Environment (PXE) ベースの ベアメタル リカバリ を実行する場合、Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux サーバおよび実稼働ソースノードは同じサブネットにある必要があります。

- (2) Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux をご使用になる場合、事前に以下のパッケージをインストールしてください。

バックアップサーバ側

- nfs-utils
- cifs-utils
- sshd (SSH デーモン)
- Perl
- genisoimage
- squashfs-tools ※

※CentOS ベースの LiveCD を作成する場合には必要になります。

バックアップ対象サーバ

- nfs-utils
- cifs-utils
- sshd (SSH デーモン)
- Perl

- (3) インストール前に以下のコマンドが実行可能であることを確認してください。

- rpc.statd
- mkisofs
- mount.nfs
- mount.cifs

- (4) 本製品をインストールするには、「Arcserve UDP v6 DVD 1of2」メディア内にある「Arcserve\_Unified\_Data\_Protection\_Agent\_Linux.bin」および、「Arcserve UDP v6 DVD 2of2」メディア内にある

「Arcserve\_Unified\_Data\_Protection\_restore\_utility.iso」の各ファイルが必要です。

それぞれのファイルを同一ディレクトリに格納してください。

またこのディレクトリのフルパスには以下の文字のみを使用してください。

a-z、A-Z、0-9、- (ハイフン) および \_ (アンダースコア)

- (5) 「Arcserve\_Unified\_Data\_Protection\_Agent\_Linux.bin」に実行権限がない場合、以下のコマンドで実行権限を付与してください。

```
chmod 755 arcserve_Unified_Data_Protection_Agent_Linux.bin
```

(6) インストール中の言語選択では「2」を選択してください。

(7) Firewall 使用環境では以下ポートを開放してください。

バックアップサーバ側

- TCP ポート:22 (SSH サーバ)
- TCP ポート:8014 (エージェント Web サービス)
- TCP ポート:8016 (インスタント BMR サービス)
- UDP ポート:67 (bootp サーバ)
- UDP ポート:69 (TFTP サーバ)

バックアップ対象サーバ

- TCP ポート:22 (SSH サーバ)

### 3. バックアップ時の留意事項

- (1) NFS 共有ディレクトリをバックアップ先として使用する場合、NFS 共有ディレクトリに対して root ユーザが書き込みアクセス権を割り当て、バックアップサーバ上の NFS サービスを起動してください。
- (2) RPS をバックアップ先としない運用においては、バックアップ先のディスク容量は、設定する復旧セット数+1分のフルバックアップ容量分が必要となります。

### 4. ベアメタル リカバリの留意事項

- (1) Cent OS ベース LiveCD (以下 Cent OS Live CD) は、以下の点に留意ください。
  - 64bit 版の Cent OS Live CD をサポートします。
  - PXE ブート方式はサポートしません。
- (2) Bootable Live CD を使用した PXE ブート方式の場合、事前に復旧対象の MAC アドレスを取得する必要があります。
- (3) 物理マシンから仮想マシンへのベアメタル リカバリ (P2V : Physical to Virtual) 、および、インスタント VM は、すべてのハードウェア環境からの P2V を保証するものではありません。以下の点を留意の上、運用前に動作を確認ください。
  - 本機能は、仮想マシンでの OS 起動までを提供します。アプリケーションの起動等その後の OS の動作は保証しません。